北海道 音威子府村（おといねっぷむら）

☆音威子府村まち・ひと・しごと創生推進事業（村立高校振興活用）☆

【お問合せ先】 北海道 音威子府村　総務課地域振興室
◆電話番号：01656-5-3311　◆FAX番号：01656-5-3837
◆Ｅメール：tiikishinkou@vill.otoineppu.Hokkaido.jp

音威子府村の概要

音威子府村は、北海道上川管内の北端に位置し、北東は宗谷管内枝幸町、北は宗谷管内中頓別町、北西は中川町・南は美深町に隣接し東西22.2km、南北18.6km、総面積275.63平方kmを有しています。村の中央を貫流する狭隘な耕地と、総面積の86パーセントを森林が占め、そのほとんどは道有林と北海道大学研究林で形成されています。

東西ともに約50kmでオホーツク海・日本海に達することから海洋性気候に属し、四方山岳の囲まれた狭隘な盆地的地形のため寒暖の差が激しく、12月から3月の平均気温は-6度以下、6月から9月は17度以上となり酷暑時期には30度以上を示す事もありますが、酷寒時期には-30度以下になることもあります。

また、道内でも有数の豪雪地帯で降雪量は12mを超えることもあります。平成10（1998）年11月18日未明から19日にかけ積雪135cmを観測し、11月の積雪量で道内歴代2番目の記録となりました。

村名の由来は、アイヌ語の「オトイネプ（o-toyne-p）」で濁りたる泥川、漂木の堆積する川口、または切れ曲がる川尻を意味しています。

音威子府村とおと高（正式名称：北海道おといねっぷ美術工芸高等学校）

音威子府村は、明治37（1904）年、うっそうたる原始林に開拓の鍬が下ろされ、10年程度で約200戸が入植した。大正時代には中川村より「常盤村」として分村（中心部は現在の咲来地区）、鉄道が開通した以降は「鉄道の村」として急速に栄え、中心部を音威子府地区にうつし、昭和前期には4,000人を超える人口となった。昭和38（1963）年には現在の村名となり、平成初期には北海道で一番人口の少ない村、平成中期には人口1,000人を切り現在に至る。

現在の北海道おといねっぷ美術工芸高等学校は、昭和25（1950）年に名寄農業高等学校音威子府分校として設置され、同28（1953）年に音威子府高等学校へ独立認可された。同30（1955）年に定時制課程として認可されるが、数年後から生徒は激減する。同38（1963）年に工業科目を取り入れるが、少子化と定時制希望者の減少により、その存在が危ぶまれた。同53（1978）年に工芸・インテリア実習を採択、同59（1984）年に全国唯一の全日制工芸科へ切り替えてから徐々に生徒数が増え、平成14年に校名変更を経て現在に至る。

企業版ふるさと納税プロジェクト

● 音威子府村企業版ふるさと納税推進計画 ●

本村には村立の「北海道おといねっぷ美術工芸高等学校（以降、「おと高）」があり、同校には毎年北海道内外から40名の生徒が入学し、卒業までの3年間を音威子府村民として過ごされます。同校3学年で全校生徒が120名程度、15～18歳の若者が全人口の20%近くを占めています。このような人口構造は、ほかの自治体に見られない特殊性であり、おと高の維持・発展、卒業生の定住・Uターン促進をすすめ、本村の人口問題に対応する取り組みを行っています。

基本目標１
村の振興の要となる高等学校の機能強化

◆数値目標：高等学校の入学者数　40人
◆具体的な施策：高等学校の仕組みの強化

基本目標２
卒業生の雇用の場創出や多様な人材活躍の推進

◆数値目標：卒業生の新規就業者数　5年間で5人
◆具体的な施策：雇用の促進、起業支援、担い手確保

基本目標３
高等学校を軸とした人の流れの促進

◆数値目標：卒業生の移住者数　5年間で5人ほか
◆具体的な施策：雇用の促進、起業支援、担い手確保

基本目標4
高校生参加による個性的で魅力あるまちづくり

◆数値目標：高校生参加まちづくり事業　年３事業
◆具体的な施策：高校生や卒業生のまちづくりへの参加

村長より（音威子府村長：遠藤 貴幸）

本村には、全国トップクラスの美術を学べる「おと高」があり、真剣に学ぶ生徒の眼差しはキラキラしています。「おと高」を卒業し、進学や就職のため、村を離れる生徒が多いですが、数年後に本村に戻られ、その才能を存分に開花していただけるようお手伝いできればと考え、皆さまのご支援をお願いする次第です。